

第19期若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン
育成セミナー

若い人たちに本当の患者利益を追求 した歯科医療を志してもらうために

海野陽子

山形県勤務 日吉歯科診療所
連絡先：〒998-0037 山形県酒田市日吉町2-1-16



冬の寒さが緩み、春の足音が近づいてくるなか、2014年3月15(土)～16日(日)、山形県酒田市の日吉歯科診療所にて「第19期若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン育成セミナー」が開催された。

本セミナーは、大学卒業後5年以内の開業前の勤務医・歯科大学生を対象としているもので、2005年に始まって以来、参加者はのべ978人となった。今回は全国各地より54名が参加し、2日間にわたり、多彩な講師陣より熱い講義を受けた。熊谷崇先生

の歯科医療哲学、日本の歯科医療の現状、世界の先進国との差、今後の展望に始まり、日吉歯科の若手勤務医による日々の取り組み、卒業生の開業から今日までの道のり、米国歯科補綴ボード認定専門医である熊谷直大先生からの専門医医療のあり方など、非常に濃密な講義が繰り広げられ、受講者たちは真剣な表情で耳を傾けた。

このようなセミナーが無料で開催されるのは、ひとえに熊谷崇先生の、これからの歯科界を担う若い人たちに本当の患者利益

を追求した歯科医療を志してもらいたいという想いからである。歯科医師過剰、経営困難などの暗いニュースも多く、なかなか希望を持ちづらい歯科界ではあるが、今回のセミナーの受講者の胸のなかには一筋に光が差し込んだことだろう。

なお、本セミナーの20期・21期はすでに満席であり、22期は2015年8月29日(土)～30日(日)が申込受付中である。参加を希望される方は日吉歯科診療所 HP を参照されたい。



1 受講者の 声

EBD の大切さや国境を越えて学びを深めることの 重要性を痛感



宇野修平

(岡山大学歯学部4年)

2011年初頭、私は企業人としてキャリアの構築に邁進していた。歯科業界に対するイメージは、その外にいた私にとってマスメディアなどで揶揄されているものと大差がなかった。

そのようななか、熊谷崇先生にお話をうかがう機会を得る。そのとき熊谷先生が発した言葉が「生涯にわたって口腔の健康を維持する」であった。一見当然のことに思えるこの言葉に込められた深い価値観、その裏づけ、手法、実現するための揺るぎない姿勢に青天の霹靂ともいえる感銘を受けた。そして新たに冬を迎える頃には、私自身、歯科医師を志したいという衝動を抑えることができなくなり、現在に至る。

本セミナーで、オーラルフィジシャン

育成の本質は、う蝕・歯周病予防のプロフェッショナル育成にとどまらないことを再認識した。メンテナンスを適切に行う目的は「予防可能な疾患に対し、未然に対処する」ことであり、これを土台に専門的治療を要する患者さんには、各分野において世界水準の知識とスキルを有した歯科医師が治療を担う。

このような役割分担と連携による一連のシステムが必要とされており、そのためにはエビデンスに基づいた医療の実践や、国境を越えて学びを深めることがきわめて重要であると痛感した。学ぶことへの欲求が掻き立てられるセミナーであった。

2 受講者の 声

患者さんの口腔内の健康を生涯にわたって守っていききたい



宿利恵里

(神奈川県勤務・佐和歯科クリニック)

本セミナーを受講したきっかけは、大学時代に熊谷崇先生の講演に参加したとき、「生き生きとした明るい歯科の将来像」のお話がとても印象的で、実際に医療の現場を見学したいと思ったからだ。

というのも、大学の講義では「歯科の将来は暗い」と憂うるばかりで、前向きな話がとても少なかった。

セミナーで痛感したことは、いかにEBD(エビデンスに基づいた歯科医療)

が大切かということだ。従来、日本の歯科医療は保険中心だったが、これは先進国ではなく後進国の医療である、との先生のお言葉には衝撃を受けた。歯科医師は患者さんの健康に対する価値観を啓発し、EBDに基づいた知識・技術で「健康を育てて」いかねばならない。

振り返ってみると、祖父が歯科医師として働いている姿を間近にみて、私も困っている人の力になりたい、と思った



▲熊谷崇先生(左)と筆者(右)。

◀懇親会にて。

こと……これこそ私が歯科医師になろうと思いついた原点だ。

今までは単に病気を治すことのみに重きを置いてきたが、これからは患者さんの口腔内の健康を生涯にわたって守っていくことを目標に掲げたい。そのためには、日々の技術の研鑽はもちろんのこと、積極的に海外の論文を読み、知見を蓄え、自分の歯科医療に活かしていきたいと思う。

3 受講者の 声

真の患者利益を与えられる歯科医師になれるよう研鑽を重ねていきたい



友田大成

(東京医科歯科大学歯学部歯学科6年)

日吉歯科で働く大学の先輩に声をかけてもらい、今回このセミナーに参加することができた。皆が一生自分の歯でおいしく食事ができるように手助けしたいという思いから歯科医師を目指した自分にとって、希望を与えてくれるセミナーであった。

講演のなかで熊谷先生は「指は手足合わせて20本、しかし、何本かなくなってもいいとは思ってならない。歯も同様

だ」と述べられ、この言葉がとても印象に残っている。セミナーを通して、歯科医療の中心は治療ではなく、“予防”にあるべきだと実感させられた。治療の何たるかを叩き込まれている現在の自分に忘れてはいけないところに立ち返るきっかけを与えてくれたと思う。日吉歯科では、できるかぎり早い時期に介入し、適正なMTMを構築、その結果カリエスフリー達成症例を数多く実現している。これは



▲熊谷先生とツーショット。

◀「歯科医療とは何か、なぜ歯科医療の変革が必要か」について語る熊谷先生。

真の患者利益につながっていると強く感じた。セミナー中も8020運動についてふれられていたが、8020運動とは何とも中途半端で、暗に欠損を前提にしており、歯科医療のめざす目標として掲げるべきものとは思えない。目を向けるのは疾病ではなく、“健康”と熊谷先生は述べられていた。自分も真の患者利益を与えられる歯科医師になれるよう、研鑽を重ねていきたい。